

平成30年度 学校評価書

常葉大学附属とこは幼稚園 園長 八木 いくみ

1 経営の重点にかかわること

○学校教育目標・・・心豊かでたくましい子

○重点目標・・・安心して人とかかわり、自ら遊びを楽しむ

学年	評価項目（各学年の指導・取組の重点等）	自己評価	学校関係者評価委員会の評価		
0歳児	<p>○生活リズムを大切に、安心感の中で過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭等に、要求や思いを受け止めてもらいかかわる中で、信頼関係を築く。 ・身の回りに対する興味や好奇心を持つ。 ・安定した環境の中で、のびのびと過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当保育教諭で協力し、毎日日々、その都度、繰り返し丁寧な言葉がけを一人ひとりに合わせてしながら過ごすことにより、安定した環境、雰囲気を作れる様にしていった。 ・保育教諭との愛着関係が築け、子どもの気持ちへと向かうようになっていく。 ・子どもの姿から、今その子が何を感じているのかを考える大切さを学んだ1年だった。 	B	<p>親と離れていかに安心して過ごせるか、と模索の一年だったと思う。</p> <p>その事もあり、常に子どもの目線での振り返りが、安定した環境保持に繋がっていたと思う。</p> <p>目標に向けて努力し、成果もあげているようなので、人・ものとのかかわり、意欲、生活習慣等を更に育てて欲しい。</p> <p>ゆったりと関わる、子どもに寄り添うということが実践されており、好ましく感じた。</p>	A
1歳児	<p>○自分の好きな遊びを見つけ、その遊びをじっくり楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定した環境の中で、身の回りのことに興味を持ち少しずつ自分でやってみようとする。 ・探索活動の中で、見る、触れる等の経験をし、人や物への関心を広げる。 ・安心できる環境の中で、のびのびと遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分でやりたい」という気持ちがとても強くなったこともあり、子ども一人一人に合わせ補助をしつつ出来る事、できるまで待つてあげられる環境を作るようにしていった。 ・友達への興味関心が強くなり、一緒に遊んだり遊んでいることを真似したりすることが増えていった。かかわりが増えることで喧嘩も増えていったため、その都度かかわり方や一緒に遊ぶ方法を伝えていくようにした。 ・子ども一人一人が自分の遊びたいものを見つけて遊び始めるようになってきた。危険が無いよう見守ったり一緒に遊ぶことで、繰り返し遊ぶ姿が見られるようになっていった。 	B	<p>目標に向け努力し、成果を上げていると思う。こども園として保護者が一番期待するところだと思う。環境を整えることから少しずつ生活習慣が身につく事への、園の子どもへの関わり方がとても丁寧だと思う。</p> <p>子ども達が気づく姿に気づく保育教諭の感受性が、子どもの意欲を引き出しているように感じられた。</p>	A
2歳児	<p>○生活の流れを理解し、安心して過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活の安定を図りながら、自分でしようとする気持ちを大切にしていく。 ・保育教諭や友だちとのかかわりの中で、一緒に過ごす心地よさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身支度やトイレトレーニングなど生活習慣が身につくように個々に合わせて丁寧な援助を行ない、家庭、クラスの保育教諭とも状況を共有して進めて行けるようにした。 ・個々の好きな遊びも大切にしながら、少しずつ「みんなと一緒に」の遊びを取り入れたり満3歳との交流の 	B	<p>目標に向け努力し、成果を上げていると思う。</p> <p>社会性も学ぶ時期に、自分とは別の『人との関わり』といった「みんな一緒に」のつながりを確認する意味でも、満3歳児との交流は必須だと思う。この点か</p>	A

	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びを見つけて、のびのびと楽しむ。 	<p>中で遊びの広がりを作っていくようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが安心、保護者も安心、その上で園生活が楽しめるよう情報発信や日々の様子をなるべく丁寧に伝えるようにした。 		<p>ら、2歳児と満3歳児の交流を通してのお互いの学びも、良い刺激と言えると思う。</p> <p>丁寧な援助の在り方が感じられ、好ましく思われた。</p>	
満3歳児	<p>○安心して園生活を送る</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育教諭や友達とかかわり合いながら、安心感を持って生活する。 簡単な身の回りのことをやってみようとする。 好きな遊びを見つけて、のびのびと楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が身につくように、個々の発達に合わせて丁寧な援助を行ってきた。 順次入園してくる子ども達に合わせながらも、全体の底上げに努めた為、身の回りのことを自ら行う力や意欲が身についてきた。また、保護者にも子どもの発達や、日々の様子について情報発信を、手紙やブログを通して行 い、保護者支援にも努めた。 補助教諭や保護者の協力を得ながら、どの子も伸び伸びと過ごせるように温かいクラス環境をつくってきた。好きな遊びにじっくり取り組み、みんなで遊ぶことの楽しさや心地よさを感じて生活が出来た。 	A	<p>目標に向け十分努力し成果を上げていると思う。</p> <p>自分でできる子とそうでない子の差ははっきりしてくるので、保育教諭の努力、援助において苦労があったことと思う。そのような中で保護者に対する支援を努められた点は素晴らしいと感じる。</p> <p>これまでの積み重ねを活かした実践により、2歳児クラスの子ども達との関係を作りながら進級につなげている点が好ましい。</p>	A

3歳児	<p>○友達や教師と楽しく園生活を送る</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心感を持って生活し、教師や友達と触れ合う。 自分の好きな遊びを見つけて楽しく遊ぶ。 集団生活におけるいろいろな習慣を知り、自分で行う。 <p>(あいさつ・着替え・食事・排泄・身支度等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個人差はあるが、保育教諭との信頼関係や、園生活の楽しさを知り、登園時に母親から離れる事がスムーズになってきた。支度を終わるとすぐに、気の合う友だちと好きな遊びを楽しめる子が増えてきた。 遊びが継続するように、2クラス合同でコーナーを設置した。クラスや担任にこだわらず、色々な保育教諭や友達と関わり合いながら遊ぶようになった。人数が多く、あそびによってはエントランスで遊ぶ子もいた為、保育室以外での見守りが今後も課題である。 クラスのみならず一緒に取り組む楽しさを知り、集団での活動に意欲的に参加するようになってきた。 生活する中で相手の気持ちに気づいたり、思いを言葉で伝えたりすることが出来るようになってきた。 	A	<p>目標に向け努力し十分成果を上げている。遊びを通じた保育を更に実践してほしいと考える。</p> <p>幼稚園を楽しみにしている学年であり、保育室だけでなくエントランスへ遊びの場が広がった点は3歳児らしく、今後も保育室以外で遊ぶ時の危険回避も要検討事項として挙げつつ、夢中になって遊べるようにしてほしい。</p> <p>2歳、満3歳、3歳児の良好な接続に安定感が感じられる。園全体に波及力があるように思われる。</p>	A
-----	---	--	---	--	---

<p>4 歳 児</p>	<p>○友達と夢中になって遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の思いを考えながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・遊びを通して、身近な自然や出来事に興味・関心を持ち、かかわる。 ・身の回りのことを自らすすんでしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊びやゲーム遊びを通して、友だち関係が深まってきた。その中で、思いのぶつかりも増えたが、教師が仲介に入ったり、時には周りの友達が仲介に入ったりして解決できるようになってきた。 ・身の回りの事について個人差があり、先を見通して動ける子がいる半面、個別に声掛けが必要な子も居る。何をすべき時なのか、自ら気付けるよう引き続き見守っていきたい。 ・クラス30人に対し、担任と学年補助が1名だった。個に合わせた援助を心掛けているが、難しい面もあった。補助2名でよりきめ細やかな対応が出来ると良い。 	<p>B</p> <p>目標に向かって努力し、成果を上げている。</p> <p>生活習慣等の個人差については、家庭での対応も影響するかと思うので、職員の人数により、困難が生じるときは家庭へ声掛け、協力を得られるよう情報を進んで発進して良いのではないかと。</p> <p>個人差が大きく保育が難しいとのことであったが、保育教諭・補助教諭とのかかわりは適切であったと思う。</p>	<p>A</p>
<p>5 歳 児</p>	<p>○遊びを通して協同性を培う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合ったり、協力したり、工夫したりして自分達で主体的に遊びや生活を進める。 ・友達の気持ちをわかろうとし、思いやりの気持ちをもつ ・話を聞き、場にふさわしい態度をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることから遊びが始まり、クラス、学年に広がっていった。共通の意識や見通しがもてるよう話し合いをして子ども達自ら、遊びを楽しみ進められるようにしてきた。 ・話し合い、友達の意見を聞いたりする中で自分以外の気持ち、思いに気付いたり分かろうとするようになり、自然と色々なタイプの友達を受け入れ優しく接する姿が見られた。 ・話を最後まで聞くことが難しい子も多かった。落ち着きがなく、毎回意識が継続するよう声掛けが必要な子もいた。子ども自ら気付けるよう援助を行ってきた。 	<p>B</p> <p>目標に向かって努力し成果を上げている。</p> <p>言葉による伝えあいが更にできるよう、援助することを望む。その場その場で自ら気づくことの援助を個々に対応することは大変かと思う。</p> <p>子どもは大人とは正反対のことを考えたり発したりするので。それでも保育教諭の努力により立派に卒園出来たことは嬉しく思う。</p> <p>落ち着きがない子どもへの対応が難しいとのことであったが、子どもの優しい心が育っており、保育教諭・補助教諭のかかわりは適切であったと思う。</p>	<p>A</p>

2 各指導部等にかかわること

	評価項目（各指導部等のねらい・取組等）	自己評価		学校関係者評価委員会の評価	
1 安全・ 保健 管理	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急時の避難訓練を定期的実施し、子どもの安全確保に努める。 ○家庭との保険に関する情報交換を綿密にする事や、流行性の疾病情報の開示を随時行なう。 ○食物アレルギー等、子ども一人一人に配慮した保健指導を行なう。 ○定期的に遊具の点検と、園庭の安全管理を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は定期的に行うことが出来た。その都度、振り返りを行ない検討事項を挙げ、確認するようにしてきた。月末に避難訓練を計画していると雨天の場合、予備日を取りにくい為、その点も踏まえて来年度は計画を立てていきたい。 ・流行性の疾病情報や当日の欠席状況をメール配信し、保護者へ感染予防に努めてもらった。 ・クッキングを行なう際、アレルギー物質の入っていない物や代用品を購入し対応していった。保護者への確認も並行して行う事で事故の無いよう努めていった。 	A	<p>目標に向け努力し十分な指導、対応が行われ成果を上げている。欠席状況等をメール配信して保護者との連絡を密にしているところは特に優れている。</p> <p>可能であれば各クラス単位で配信されると、より情報や状況も見通せるのではないかと思う。また、その方が感染拡大予防にもつながると思う。</p>	A
2 運営 組織	<ul style="list-style-type: none"> ○報・連・相を適宜行い、幼児教育は「組織的・計画的に」を合言葉に、円滑な運営に努める。 ○「4者会」「教務会」での話し合いを各学年におろし、情報共有を図る。 ○教職員相互の信頼関係を大切にす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で学年同士、各学年間での話し合いをしたり、常勤非常勤全員参加の職員会議を行なった。しかしまだ3歳以上と012歳児の職員の話し合いの時間をとることがなかなか難しいので引き続き時間を有意義に使って相互理解に努めたい。 ・毎日必ず夕礼を行なったりデイリーメモを活用することにより、園全体、他学年の情報共有を目指したが、まだ定着していないため全員が共有するところまでは至っていない。 	B	<p>目標に向けて努力し十分成果を上げている。</p> <p>シフト表の作成、デイリーメモを活用し教職員相互の関係を深めている。</p> <p>次年度は「話し合いの時間をとる」という課題が解決できると良い。</p>	B

3 研 修	<p>○園内研修「遊びが生まれる瞬間を見取る」を通して、子ども理解を深め、共通理解を図る。</p> <p>○より良い「こども園」を目指して、合同研修や、H31年度実践学会口頭発表に向けて、振り返りをしながら両園で情報交換をする。</p> <p>○スキルアップとなる外部研修に参加し、保育の質の向上に繋げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究保育を取り入れたが、じっくりと保育を見たり、午後の話し合いに参加したりする時間的余裕が十分に取れず、共通理解を深めることが困難だった。こども園になったことを考慮して、研修の方法にも工夫が必要と感じる。 ・両園合同研修を年3回実施した。現状と課題を共有し、より良いこども園に向けて園内での話し合を行なうきっかけとなった。 ・各自外部研修に参加している。報告の方法を改善し、園内での共有に繋がられるようにしていきたい。 	B	<p>試行錯誤の中ではあるが、充実した研修の取り組みができています。</p>	A
4 家 庭 ・ 地 域 と の 連 携	<p>○各家庭に保育の取り組みをわかりやすく伝え、理解に繋げ、信頼関係を築く。</p> <p>①4・5歳児はシール帳を継続し、子どもの様子が直接保護者に伝わるようにする。</p> <p>②行事や参観の際には、子どもたちの遊びにどのような意図があるかなど、保護者にわかりやすく伝える。</p> <p>③面談等を利用し、保護者からの相談を丁寧に受ける。</p> <p>○「とことこクラブ」を開催し、未就園児が親子で楽しいひと時を味わえる様に、各回ともに工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に急遽実施した、在園児向けの説明会の他にも、行事や活動の意義等をなるべくわかりやすく伝えるよう年間通じて努力をした。保護者理解が必要なことは何か、職員全員で考えていったが、多忙な時期になると、保護者への伝達等もぎりぎりとなることがあった。PTA本部役員にも相談したり、協力を依頼することもあり、今後も綿密なやりとりが必要である。 ・未就園児親子あそびの会は、園児が関わることも多く、参加者から好評ではあったが、時期により園児の活動が窮屈になることもあるため、今後はより計画的に進めたい。 	B	<p>こども園初年度としては十分な取り組みがなされていた。初年度ということもあり、手際が悪く感じたかもしれないが、今後継続的に取り組んでいくことで、だんだんと整理されていくと良いと感じた。</p>	B

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 常葉 大学 内 連 携</p>	<p>○たちばな幼稚園との研修や交流。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同研修を行ない、子ども理解を深める。 ・H31 実践学会口頭発表について進める。 ・子ども同士の交流会（3歳児以上、年2回） <p>○中学・高校・短期大学部・大学の実習生受け入れやパイプ強化。</p> <p>○短期大学部との共同研究。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H31 実践学会口頭発表について、短大、大学と一緒に研究し、準備を進める。 <p>○大学校舎の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たちばな幼稚園園児との交流はお互い楽しく、遊びを通しての交流という目的も達成された。 ・H31 年度実践学会口頭発表について、少しずつではあるが、短大、両幼稚園で取り組んでいる。担当者同士が実際に話し合うという時間の確保が今後の課題である。 ・高校生、大学生（短期大学部、保育学部、看護学科、健康プロデュース学部）と多くの実習生を受け入れる。子ども達のためにも、良い経験となっていた。 ・瀬名キャンパス、草薙キャンパスのお茶室を活用した。園ではできない経験の場となり、今後も継続していきたい。 	<p style="text-align: center;">B</p>	<p>こども園に移行したことによってさまざまな情報交換の必要性が高まり、充実した研修が両附属園の実践向上に貢献していると感じられる。大学・短期大学部との連携は今後、より深めていく必要があると感じた。</p>	<p style="text-align: center;">B</p>
--	--	--	---	---	---

*A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない D 取組が不十分である